

「ふくしまの農育」推進事業田んぼの学校 笈川小学校とともに歩んだ3年間の軌跡

はじめに、この事業はうつくしま田んぼの体験学習授業という名称で平成18年度からスタートし、平成21年度より「ふくしまの農育」推進事業田んぼの学校へ名称を変えて今日に至ります。

この事業は、3カ年計画で実施することとなっており、身近な地域に存する自然資源を学びの場として活用し、体験活動を通して児童に農地と土地改良施設への理解を深めてもらうことに加えて、「農業・農村地域の大切さ」、「環境の大切さ」、「食・命の大切さ」について考える機会を設けるとともに、豊かな感性と深い見識を持つことを目的としています。会津農林事務所が取り組んできた同事業の歩みは下記のとおりです。

【これまでの“あゆみ”について】

平成18年度～平成20年度 耶麻郡猪苗代町立千里小学校にて実施（旧事業名による）
平成21年度～平成23年度 河沼郡柳津町立柳津小学校にて実施
平成24年度～平成26年度 河沼郡湯川村立笈川小学校にて実施

笈川小学校とともに歩んだ3年間の様子をまとめました。

笈川小学校とともに歩んだ
～たんぼの学校3年間の軌跡～

〔田植え〕

～平成24年度（1年目）の様子～

遡ること3年前の6月1日金曜日、この日に開校式及び田植えが行われました。この日から、笈川小学校と会津農林事務所の農育推進事業が始まったのでした。

【参加者】児童:33名（6年生16名、5年生17名）、教員:4名、地主:1名
JA会津みどり湯川:1名、県:9名



この日は、雲行きが怪しく今にも雨が降り出しそうな空模様でした。そのなかで児童たちは、互いに力を合わせて苗を準備し、農青連の方の指導の下で懸命に手植えを行っていました。

～平成25年度（2年目）の様子～

2年目は、5月31日金曜日に実施しました。当日は、児童の日頃の行いが吉と出て晴天に恵まれました。地主の蓮沼さんがあらかじめ定盤で引いて下さった線に沿って、2、3本ずつ苗を植えていきます。

【参加者】児童:33名（6年生17名、5年生17名）、教員:3名、地主:1名、
JA会津みどり湯川:1名、県:9名



足下がぬかるんで不安定な状態ですが、次第にコツを掴んでしっかりした足取りになっていました。

～平成26年度（3年目）の様子～

3年目の田植えは、5月30日金曜日に実施しました。昨年までとは違い、湯川村主催の「豊穰の芸術祭」の一部として位置付けられ、笈川小学校に加えて、勝常小学校5、6年生児童と湯川中学校全生徒と一緒に行いました。

【参加者】児童:166名（笈川小学校5、6年生26名、勝常小学校5、6年生33名、湯川中学校全学年107名）

教員:18名（笈川小学校3名、勝常小学校4名、湯川中学校11名）

地主:1名、県:14名



湯川村が借用した水田において他校の児童と一緒に手植えを行いました。途中でくたびれてお尻をついてしまった児童もあり、泥だらけになりながらも懸命に取り組んでいました。

田植えが始まる前のセレモニーにて、「伝統と革新との調和」をテーマに、ダンサーが勝常念佛踊りに合わせた創作ダンスを華麗に舞う一幕もあり、今までとは違った田植えとなりました。

〔生きもの調査〕

～平成24年度（1年目）の様子～

7月4日水曜日に、笈川小学校からバスで15分ほどの距離にある立川橋下の阿賀川において、生きもの調査を実施しました。

【参加者】児童:17名（4年生）、教員:3名、講師（アクアマリンふくしま職員）:2名
県:9名



当日は、前日までの雨が嘘のような晴天に恵まれ、綺麗な青空が広がっていました。川の水の水質調査（CODパケットテスト）を行ったところ、市街地の下流ということもあってか、少し水質の汚れが確認されました。

アクアマリンふくしま講師のレクチャーを受け、生きもの採取に臨みます。水生生物との出会いを通して、様々な生きものが生活していることを学びました。

～平成25年度（2年目）の様子～

2年目は、9月13日金曜日に行われました。朝方は曇り空だったのですが、開会式が始まる頃になると太陽が顔を出し次第に晴れてきました。

【参加者】児童:9名（4年生）、教員:1名、講師（アクアマリンふくしま職員）:2名、
県:9名



児童たちは、少し緊張している様子です。まずは、川の水の水質調査から。去年は、少し水質が悪いとの結果でしたが、今回は「まずまず良い水質」とのこと。

講師の方から生きものの捕り方のレクチャーを受け、いよいよ生きもの探しが始まります。草の根元をガサガサ揺ると、虫たちがびっくりして出てきました。驚かせてごめんね。

網でそっとすくってみると、川の中に住む生きものが捕れました。早速、どういう生きものなのかを図鑑で調べます。

最後に、調査に協力してくれた生きものたちをそれぞれ元の“お家”へ返しました。

～平成26年度（3年目）の様子～

3年目の生きもの調査は、7月11日金曜日に実施しました。台風上陸による悪天候のため現地での採集が中止となったため、急遽、アクアマリンふくしまの学芸員である春本宣範講師による「生きもの授業」へ変更。当日は、いわき生まれの水生物たちに出張してもらいましたが、地元の生物も観察してもらおうべく、悪天候のなか講師に会津某所で採集して頂きました。

【参加者】 児童:38名（うち勝常小学校4年生12名が特別参加）

教員:3名（笈川2名、勝常1名）、講師（アクアマリンふくしま職員）:1名
県:4名



左から1枚目及び2枚目の写真は、会津某所にて採集された生きものです。アブラハヤやフクドジョウが捕れました。右側の写真は、農林事務所職員のペット「びよんきち」です。珍しいニホンアマガエルのアルビノタイプです。メスなので鳴きません。



春本講師による「生きもの授業」が始まりました。田んぼの特長や食物連鎖など、我々大人が聞いても面白い内容が盛り込まれています。最初、緊張した面持ちの児童たちでしたが、次第に講師の春本ワールドに誘われ、目をキラキラ輝かせて授業を受けています。



こちらは、前日に春本講師が会津某所の農業用排水路で採取したナマズです。児童たちに囲まれて（至近距離での撮影に苦戦）しまい、若干動揺している様子でした。農林事務所職員のペット「びよんきち」も活躍してくれました。

〔稲刈り〕

～平成24年度（1年目）の様子～

月日が流れて季節は秋。10月3日水曜日に稲刈りが行われました。

【参加者】児童:33名（6年生16名、5年生17名）、教員:3名、地主:1名、
JA会津みどり湯川:1名、県:8名



あらかじめ、地主の方より稲の刈り方や束ね方について説明を受けます。



いよいよ本番です。皆さん、うまく刈っていますね。束ね方に難儀している様子です。コツを掴むまでが大変なのです。

～平成25年度（2年目）の様子～

2年目は、10月2日水曜日に実施しました。昨年同様に曇り空ですが、時折太陽が顔を出します。

【参加者】児童:34名（6年生17名、5年生17名）、教員:2名、地主:1名、
JA会津みどり湯川:1名、県:7名



今回は、農青連の大関さんより稲の刈り方を説明頂き、いざ本番です。皆さん上手に刈っています。落ち穂も無駄にしないように拾いました。刈った稲は、稲刈り機まで運んでその場で脱穀します。最後に、みんなで刈った稲がモミとなって出て来ました。

収穫祭には、このお米でご飯を炊いて全校生徒でいただきます。

～平成26年度（3年目）の様子～

3年目の稲刈りは、10月9日木曜日に実施されました。田植えと同様に、湯川村主催の「豊穰の芸術祭」の一部として位置付けられ、笈川小学校に加えて、勝常小学校5、6年生児童と湯川中学校全生徒と一緒に行いました。

【参加者】児童:166名（笈川小学校5、6年生26名、勝常小学校5、6年生33名
湯川中学校全学年107名）

教員:18名（笈川小学校3名、勝常小学校4名、湯川中学校11名）、

地主:1名、県:6名



中学生のみなぎるパワーに圧倒されながらも、笈川及び勝常小学校の児童たちは真剣になって稲刈りをしていました。そして刈った稲は、束ねてから、はせがけします。

すべてが手作業なので、先人たちの苦労を偲ぶとともに、食べ物大切さを改めて実感する良い機会になりました。



三味線が奏でる和風旋律に合わせたダンサーによる豊穰の喜びの舞いは、黄金の水田をより一層美しいものにさせてくれます。

農業に興味を持った児童もおり、次代を担う若人を予感させました。

〔収穫祭〕

～平成24年度（1年目）の様子～

稲刈りが終わると収穫を祝います。11月7日水曜日に収穫祭が行われました。

【参加者】児童:全学年、教員:8名、湯川村教育委員会評議委員:2名、地主:1名、
県:8名



当日は雨に見舞われ、テント内で調理をすることになりましたが、薪をくべて火を起し、互いに協力しながら芋汁の調理を進めていきます。ご飯も炊けたところで、会食です。皆さん、美味しく仕上がっていたとのことで、満足された様子です。

～平成25年度（2年目）の様子～

2年目の収穫祭は、10月24日木曜日に行いました。台風接近により、時折強い風が吹いて雨がぱらついています。

【参加者】児童:105名（全学年）、教員:13名、湯川村教育委員会評議委員:3名、
地主:1名、県:10名



今回も1年目と同様に、雨除けテントのなかで調理をすることに。杉の葉や木の枝等で釜戸に火を起こします。なかなか火が着かず焦ったり、煙が目にしみる等の苦労に見舞われましたが、互いに協力し合い調理を進めます。

そうしているうちに、芋汁の出来上がり。丁度、ご飯も炊き上がったようです。児童たちの想いが空に届いたのか、雨が上がり陽の光が差し込んできました。

いよいよ会食です。味噌を多めにしたり、醤油を多めにしたり各班によって味付けが異なっていました。食べ盛りで、ご飯だけを5杯もおかわりした児童がいたようです。みんなで力を合わせて作ったご飯と芋汁に、児童も大人も舌鼓を打っていました。

～平成26年度（3年目）の様子～

そして3年目の収穫祭は、10月24日金曜日に行いました。当初、10月23日に行う予定でしたが、天候を配慮し一日延期を決定して行ったため、児童たちの日頃の行いが吉と出て前日までのぐずついた天気が嘘のような晴天に恵まれました。

【参加者】児童:102名（全学年）、教員:12名、地元農家:5名、県:7名



事前に、児童に対して教員から火の起こし方や調理の仕方について説明がありました。説明通りに行う児童もいれば、自己流のやり方で行う児童もあり、それぞれが個性を発揮して取り組んでいます。

味付けに際し、なかには斬新な味付けを提案する児童がおり、教員やスタッフがハラハラドキドキする一幕もありましたが、味噌と醤油で美味しく味付けをしたようです。



残り火を利用して焼き芋も作っちゃいましょう。焼き芋作りは、火加減が難しいのです。丁度ご飯が炊き上がったので、素敵なおランチタイムの始まりです。みんなで協力して作ったご飯と芋汁は、格別です。食べ盛りの児童は、驚くほどよく食べます。なかには、何杯お代わりしたのか分からなくなってしまう強者も。お天道様も、微笑みながら少々暑いくらいに照らしてくれています。



そうしているうちに、芋が焼けました。蜜がたっぷり入っていて、とても美味しそうです。

ご飯と芋汁でお腹がいっぱいだったはずの児童たちですが、焼き芋は別腹です。各々、スイーツタイムを楽しんでいました。



食べ終わった後は、みんなで協力して後片付けをしました。

〔農業用水に係る学習〕

～平成24年度（1年目）の様子～

生きもの調査の際に、児童から「学習田に入ってくる用水は、どこから流れてきているの？」という質問があり、11月15日木曜日に農業用水に係る授業が行われました。

【参加者】 児童:17名（4年生）、教員:1名、
講師:1名（会津東部土地改良区 三城事務局長）、県:2名



湯川村の水はどこから来るの？水に関する歴史は？身近な地域に流れる水についてみんな学びます。講師は、会津東部土地改良区の三城伸次事務局長です。

実は、学習田に入ってくる用水は会津東部土地改良区が管理している猪苗代湖から日橋川を経て高瀬頭首工、高瀬堰用水路を通して供給されているのです。三城講師より、各農業用水施設についての説明と、水を得るために先人たちがしてきた苦労についてお話がありました。

～平成25年度（2年目）の様子～

2年目は、湯川村を流れるもう一つの水源である『戸ノ口堰用水路』を見学することになり、11月14日木曜日に実施しました。

【参加者】 児童:8名（4年生）、教員:1名、会津若松市ボランティアガイド:1名、
講師:1名（戸ノ口堰土地改良区 鈴木事務局長）、県:5名



洞門前にて、講師である戸ノ口堰土地改良区の鈴木事務局長より白虎隊士も通った「戸ノ口堰用水路」について講義して頂きます。用水路について勉強した後、会津若松市ボランティアガイドの方から、「滝沢洞門」の歴史について説明して頂きました。

いよいよ洞門の中へ入ります。あらかじめ、水門を閉めて洞門内に水が流れていない状態にしてあります。中へ進んでいくと、そこは不思議な空間に満ちていました。出口から出ると、観光客の方が拍手で迎えてくれました。どうやら、観光ガイドの方から児童たちが洞門くぐりをしていると聞いたようです。

～平成26年度（3年目）の様子～

11月6日木曜日に、2年目に引き続いて戸ノ口堰用水路の現地学習である『洞門くぐり』を行いました。

【参加者】児童:26名（4年生）、教員:2名、会津若松市ボランティアガイド:1名、
戸ノ口堰土地改良区:3名（鈴木事務局長（講師）、齋藤主任、大桃会計主任）、
県:6名



熊鈴を着けたスタッフ（県）を先頭に、一路洞門を目指して歩きます。洞門入り口で、講師である戸ノ口堰土地改良区の鈴木事務局長が、「戸ノ口堰用水路」について分かり易く教えて下さいます。児童たちは真剣にメモを取っていました。次に、会津若松市ボランティアガイドの松崎さんに「洞門の歴史」について説明して頂きました。



いよいよ、洞門の中へレッツゴー。戸ノ口堰土地改良区の齋藤主任、大桃会計主任が踏み台を設置し、児童が安全に水路へ降りることが出来るようにサポートして下さいました。昔、この洞門を白虎隊士がくぐったと言われていています。我々がくぐった時は、事前に水門を閉めて水が流れていない状態になっていますが、白虎隊士がくぐった当時の状況は彼らが空腹であったことに加えて、水が流れており、かつ明るさも十分ではなく足下が悪かったことでしょう。敵に追われた上、隊長ともはぐれ苛酷を極めたものだったと聞いています。出口付近になると、辺りは未舗装の状態です。田畑が潤う郷土を目指し、困難な工事に挑んできた先人の苦労が偲ばれます。



この体験によって、「郷土を想う心」と「大きな事を成し遂げる為には、不屈の精神が必要」であることを改めて気付かされました。児童たちには、今回の体験を通して学んだことを、各々の将来を考える上で活かして頂けたら幸いです。

～3年間で振り返り思うこと～

会津農林事務所農村整備部は3年間に渡って、田植え、生きもの調査、稲刈り、収穫祭、農業用水に係る学習を通して、湯川村立笈川小学校とともに農育推進事業に取り組んで参りました。そして、平成26年11月6日に実施した洞門くぐりをもちまして修了することとなりました。無事に事業を全うすることが出来たのは、これもひとえに、校長先生をはじめ各先生方、地域の関係者の方々のご支援ご協力を賜ったおかげであります。

この事業は、児童に農業体験などを通して『地域』、『環境』、『食』を身近に感じ、それらを知ることによって命の尊さを考え、豊かな感性と深い見識を持って頂くことをモットーとしております。当農村整備部は、通常農業生産の基盤整備として主にハード部門を担当していますが、本事業については普及業務の一部も担っています。

どうしても『農業』という産業は、生産という「表舞台」だけが注目されがちですが、そこには水路や頭首工、そしてダムなどの「裏方」という名のハード部門の施設も関わっているということを、児童に理解して頂くことが本事業にとって重要であると考えております。

農業を体系的に捉えるということは、一見理解し難いように感じられますが、視点を変えることによって、ジグソーパズルを組み立てていく作業に類似するのではないかと思います。ジグソーパズルは、幾つかあるピースを組み立てていくことによって完成されますが、ピースが一つでも欠けてしまうと、作品として成り立たなくなってしまいます。それは農業も然り。環境や技術だけではなくハード部門の施設もそこに存し、それらを上手く担い手が活用することによって、はじめて農業という一つの“絵”が出来るのです。そしてその“絵”を、児童たちに理解して頂くべく、引き続いて今後も「ふくしまの農育」推進事業田んぼの学校に取り組んで参る所存であります。